

【自由記述（未就学児）】

問55 最後に、我が国において少子化が深刻化する中、出生率が向上するにはどのようなことが大切だと思いますか。ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

【経済的支援に関すること】

賃金アップ

子育てする世代が楽しめば、自ずと増えると思う。楽しむためには、お金は必要。給与アップ、期待している。

子育てにおける経済的支援（紙おむつ・ミルク代の支援、住宅手当等の充実、年少扶養控除の復活、出産一時金の増額等）

教育に関する費用を無償にしてほしい（保育料、学費、給食費、学用品の無償化など）

第三子以降の優遇を第二子以降にしてほしいです。子ども一人目から二人目へのハードルを低くしてほしいです。

一人目からの充実した経済的支援、所得制限等をなくしてほしい。

子の人数に応じた減税制度。子の養育に関わるモノの消費税撤廃。

現状、育休がない家庭でも育休が取れて、お金が育休給付金並みに月額もらえる制度（自営業でも）

育休中の給料100%支給。現在は6割～3割支給で、経済的問題で1人か2人で子作りをやめる人も多いと思う。

育休手当を10割にしてほしい。第3子以降、子供に対するお金とは別に「お母さん育児お疲れ様のお金」を月々頂けたら第3子も考えます。出産できるのは女性のみ。「出産してくれてありがとう」のお金くらいあってほしいと思う。

男性の育休、女性の育休の手当を8割に統一してほしい。夫にも育休を取ってほしくて元から少ない給料がさらに減ると取得ができないため。

私は現在ちょうど1歳の娘がいますが、本当は職場復帰せずに、続けて妊娠出産がしたかったのですが、育児休業給付を満額もらうには復職する必要があったため、やむなく復職しました。

経済的な理由で子どもを持ちたくても持てないもどかしさがあるので、支援していただけたらうれしいです。

私自身、子どもを産むまで2人でいいと思っていましたが、産後3人いてもいいなと思うようになりました。が、夫が経済的な理由でまだ考えようと言っています。子どもをたくさん持ってもゆとりのある生活を送れるようにしてほしいです。

子育ては時間、費用がかかります。あと、働く場所によっては、休みをもらうたびにいやな顔をされることも。

先々のお金を考えると不安になります。医療費ゼロになりましたが、学費、生きるための衣食住費、その不安が少しでも軽減できたらなあと思う毎日です。

何人でも生みたいけど、手当くらいのお金では全然足りない。給食費も莫大な負担。体操服や上履きもバカ高い。支給してくれたらいいのに。

ひとり親世帯だけがお金がないと判断しないでほしい。生きていくだけで精一杯です。

物価も上がり、給与は変わらないのでは出生率は向上しない。

また、妊娠・出産に伴い、女性の社会的地位が守られない環境が今もあると思うので、そこを変えないと難しいと思います。

0～2歳の保育料が無料になれば二人目、三人目も考えたいと思います。物価高騰のダメージが大きく、貯金をすると日々の生活をだいぶ切り詰めないといけないのが大変です。

産んで終わりではないので継続的な支援が必要だと思う。個人的には両立が大変だと思うのでキャリアアップしたい女性は出産を躊躇していると思う。経済的なサポートが必要だと思う。現在も様々なサービスはあるのでそこはありがたいと思います。

フルタイム（週5日、8時間）で仕事をしなくても今の給料程度のお金がもらえる。

意見になるかどうかは分かりませんが… 共働きをしないと生活ができないので両親フルタイムの共働き、核家族、実家に頼れない我が家からすると、経済面だけでなく時間のゆとりはありません。共働きは社会とつながるためにも大切だと思っていて働きたいですがフルタイム+残業となると家事、育児にも影響します。（しています）一人あたりという職種によって給料が違いすぎ、介護士の夫の月給はほんとうに企業（会社員）に比べると少ないです。介護、保育、教育関係の方の給料UPがもっと必要です。私も保育士を辞めて会社員になりました。4人の子を育てるための決断です。本当に困っている家庭の意見を聞いて頂き一つ一つ改善されますように。

経済力が豊かにならないと結婚にも余裕がなくなる（養う側の男性）のと、子供が出来ても2人がやっとになる（周りでも大学まで通わせようと思うと2人までしか無理と言っている人がいる）

一部の企業は始めているが、出産・育児休業を取得する人のフォローをする人側にも手当てを支給したり、出産する側以外の人にも配慮が必要だと思う。経済的な支援が必要なのか、精神的・肉体的疲労への支援が必要なのかニーズに合わせた支援がスムーズに受けられるようになると思う。また、それ以前に結婚する人が増えないと安定した出生率向上には繋がらない。結婚に前向きになれるよう、若い世代の収入を増やす事も必要だと思う。

安心して出産、子育てが出来環境と2人目、3人目…と産んでも不安の無い経済力のサポートがあれば出生率の急激な低下は避けられるのではと思います。子育てにお金が掛かるのに、自分たちの老後の心配までしなければならないので、経済負担は図り知れません。子どもたちが不自由なく生きていけるのであれば、親としては安心です。

自分の将来のお金のこともままならないこの時代に子供を産み、育てようと思わせるようにするには、よほど手厚い支援を打ち出さなければ若い人たちの考えは変わらないのではないのでしょうか。それは、経済的な支援だけではなく、働き方の支援、精神的ケアなど総合的に考えていかなければならないと思います。

子育て世帯以外に対しても経済支援を望む。子供を産んでも育児や家庭が両立できるようにしてほしい。

子どもがいる世帯だけでなく、30代～40代の住民に所得金額によって経済的支援をしたら良いと思う。支援があることによって結婚や妊娠出産のきっかけに繋がると思う。

子育てに対する経済的な不安は大きいです。まずは結婚して子供を育てたいと思えるような政策が増えれば、独身未婚率も少しは下がるかと思えます。

夫婦共働きでないと経済的に厳しく生活ができないということは、妻が妊娠出産で仕事が出来なくなる期間、生活ができないということです。それを思うと妊娠出産というのはハードルが高く思います。経済面での支援があれば嬉しいです。

子どもを産んだ世帯に対する経済的なサポート。独身や子供がいないことが不利になるという体制になれば、皆必死で結婚、出産に臨むと思う。昔の日本は、家を継ぐ、嫁ぐことが当たり前だったので、結婚していたと思う。昔に戻る必要はないが、税金が免除されて手取りが増える、各種割引になるといったメリットをもたらせば、出産に積極的になると思う。

【就労と子育ての両立等に関すること】

働きながらも子どもを産み育てやすい環境づくり（不妊治療の理解・支援、子どもを安心して預けて働ける支援）

働きながらも子どもと関わる時間が増えるように働き方を選ぶようにして欲しい。3歳まで育休手当を支給して欲しい。

- ・仕事、家事、家計のことなどとらわれずに、子育てが楽しいと思える環境が必要（育児休業給付期間の延長、病児・病後児保育の拡充など）
- ・仕事と子育て以外にも自分の時間が持てること（そういう考え方の普及、職場の配慮、子どもの一時預かりへのハードルを下げるなど）

子どもがいて幸せだと思うが、出産の傷や産後のホルモンバランスの乱れによる体調不良で心身ともにしんどくなることもある。悪阻等に耐えながら産前6週まで働き、産後1年で仕事復帰はつらいです。妹が「経済的な将来の不安が大きく、さらに産前産後の大変さを見て、出産したいと思えない」と言っていました。税金の適正な運用、社会保険料負担の見直し、労働時間や休暇など働き方の見直しが必要だと思います。

また、子ども、特に乳幼児にとって親（保護者）と一緒に和やかに過ごす時間は安定した人格形成のために必要だと10年以上保育士をしてきた中で実感しています。園を増やし、保育時間を延ばし、病児保育施設を増やし、子どもを預けて（なるべく8時間フルタイムで休まず）働ける環境づくりを！が先行しないようにしてほしいです。

女性が安心して仕事と家庭を両立できる働き方を充実させること。現に時短勤務をせざるを得なくなると、その分給料、ボーナスも減り、とても厳しい。かといってパートだと福利厚生も充実しておらず、働き方に困る。働きながら子育てができる仕組みをもっと理解し、広めていってほしい。実際には、落とし穴しかなく、何かを妥協せざるを得ない、それが子育てへの不満、不安になり、働く意欲も低下すると思う。

ひとり親で、一人分の収入、ましてや子育てが大変でパートに転換し、給料も減ったにもかかわらず、支援が少なすぎて生きづらさを感じる。反対に3人目以降の児童手当が増えたりと改革もあるが、何にも当てはまらず、得をする人とそうでない人の差が激しすぎる。前年度所得で児童扶養手当も決まるが、今が苦しいのに減額となりさらに苦しくなる。

不妊治療のために休みづらい。休みも足りない。

仕事と子育ての両立がもっとしやすくなること

職場で年休が40日と子供年休が10日あったが、子供の体調不良で半年でなくなりそう。これから年休がなくなり仕事に出られなくなれば給料が減り生活が苦しくなってしまうか不安。両親も仕事をしているので預けることが出来ない。預けることにお金がかからない仕組みがあれば良いと思う。

職場における育休及び子の看護、行事に係る休暇が取得しやすい雰囲気づくり

仕事と両立できる仕組み。今の社会では、介護や子育て、自身の養療などを同時に行うことを前提とした働き方になっていない（ギリギリの人員で働いていて休めない。etc

出産後に夫婦で育てる時間が確保できること（父親もあたりまえに育児休業がとれるなど）、仕事復帰後も育児との両立ができそうと思えること、経済的負担が増えすぎないこと。

育休制度が3歳まで使えるのに、2歳以降は育休給付がなくなるから、なかなか3歳までの育休延長制度が使えないのが残念です。

今までフルタイムで働いていたが、出産して復帰すると時短勤務になり、出勤時間が短いため職場での評価が下がってしまう。時短勤務でも評価は下がりにくくって言うくせに現実は下げられている。評価が下がると給料やボーナスが変わってくる、ということもあるからじゃないかな？と私は思います。

【保育サービスに関すること】

保育サービスの充実。園に預けたくてもなかなか入所できない現状があるので、安心して将来のことを考えたい。

子供の人数に対して保育士さんがとても少ないと聞くので保育士の賃上げや、0歳児が入れる園がほぼないということだったのでどうにかならないかと思います。

こども園に入れない。子どもを預けて、仕事に行ける環境が大切だと思います。出産で、休職することも不安だし、その後も不安だと、生活の事を考えると、出産を考えてしまうのでは。

【子どもをめぐる環境に関すること】

もっと子ども、子育て世帯への理解がほしい。子どもってうるさいし、あがらないことするし、言うこときかない。それを親の責任にせずみんなで育てていこうってならないと本当に子ども産みたいって人がいなくなる。

みんなで育てる環境であればすてきなあとと思いました。

子育て=大変というイメージが強い。支援も昔よりも充実していると思うけど申請しないともらえないので不便を感じる。メディアはもっと子育ての楽しさを伝えるべきだし、申請してもらえるお金のことをもっとわかりやすく伝えて欲しいと思う。

子育ての楽しさが伝わること。大変さばかりが目立って、若い世代の方が子育てを敬遠されている気がします。そして、経済的に大変でない環境を作り、それを広く知ってもらうことが大切だと思います。

男女ともに20代で結婚して子供を産んだら出生率が上がると思う。若い時（学生のとき）から大人が子供たちに世の中こうしたらよくなるねということを教えてあげるといいと思う。

支援の対象が低所得者に限られるなど、限定的な施策は不要だと思います。

子どもが大人になったとき、生きやすい世の中である希望が持てること。今のままでは私たち世代もですが、かなり苦しい未来になるのではないかと不安がある。子世代になればさらに悪くなっているのではないかと不安で、そんな状況で新たな命を生むことを負い目に感じる場合があります。

子どもを持つことにネガティブな印象が私は強かったので、子どもを持つことのすばらしさ、メリットも発信してほしい。子育てをする上でお金のことをしっかり教えてほしい。ベビー用品はいくらかかるか、手取りが何円あれば生活できるのかとか。

議員の入れ替え！老害ばかり！税金ドロボー！利権国家うんざり！そんな人たちが国のトップで誰が子ども産みます？賃金だってひとつも上がらないのに増税、物価上昇ばかり。こんな国に子供を犠牲にできない。結局この意見だって誰にも届かない。

3子目の対策が中心である政策が間違っている。まずは第1子を安心して産める社会環境の構築が必要だと思います。

ベビーシッター等の子育て支援。出産後の育児・家事・経済的な不安を全て取り除ける環境構築及び支援。家庭で育てるのではなく、国・自治体が育てるという姿勢。

特に鳥取県中部は、給与が高い企業が少ない。だから若者は都会に働きに出てしまう。中部にいる若者も、賃金が安くて生活に余裕がない。賃金が安いから共働きするしかなく、そうすると時間的にも精神的にも子供を増やそうと思う余裕はできない。

女性の社会進出が進む一方で、女性には社会的責任、家庭での責任と負担が大きい。配偶者が協力的で、子の世話をしてくれていても、母子の関わる時間がない事に罪悪感も感じている。母が家事や仕事を気にせず子供と接する時間が増えると子供も増えると思う。母が笑顔でいれば子供も家庭も明るくなると思います。

3人目の壁が厚い。2人目から3人目を勇気を出して育てようと思う環境がほしい。

「一人でいい(結婚しない)」「子供は面倒くさい」等の気持ちの部分もあると思うのでそちらのことも考えていいのではと思った。妊娠しても誰にも相談出来ず、出産しても母親が残念なことをしてしまい、生きることが出来る命が消えてしまう状況をなんとかしてほしい。

子どもがいたら行動も制限されて毎日謝ることが多いこの世の中で、わざわざそんな苦労を自らかってでる人はいないと思う。みんな子どもに優しくない。公園は子どもだけのものじゃないと言われたり、学校には放課後入れない。道で遊べば危ないって言われる。大人は見守ることをやめてしまい、子どもを監視するようになった。なんでもかんでも大人の都合でやめてしまい、ラジオ体操も夏休みのプールも夏休みの学習も運動会も祭りも。そんな環境で子どもたちはどうやって大人になっていくのでしょうか？大人が子どもたちを見守り育てるそんな街にはなりませんか？北溟中の空いた土地を子どもたちのための木登りができる森、水遊びができる川、のぼれる山、身体を動かせる遊具、本を読んだり宿題ができるちょっとしたリースペース。こども食堂のような安価で子ども達が飲み食いできるお店など、そういうものをつくろうと思わないのですか？どうしたら？と聞けばかりでなく考えてください。町長や議員、役場の職員ってそういうことを考えるお仕事でしょ？

結婚して子どもが出来るのが当たり前と考えない。結婚せずに子どもを産む人、離婚して片親や祖父母が子育てをする人もいる。やむを得ない事情で妊娠してしまい、出産に至る人もいる。結婚して子どもを産んで育てることが唯一の正しい道ではなく、様々な背景や事情を抱えて子どもを育てている人もいる。町全体で、どんな人やどんな子ども(特に弱い立場に置かれている人)でも、ここでなら育てられる、という環境を作っていくことが、結果的に誰もが子育てしやすく、安心して住みやすい町になっていくと思う。

【妊娠期の支援に関すること】

私は、つわりがつかつたので、つわりに効く薬があると楽になると思います。

子供を望んでも出来ない人が増えている気がする。不妊治療を無料にしたら変わると思う。妊活のための医療費が高額なため、子どもをあきらめる人がいることが残念。補償してほしい。出産も大変だが、妊活中もいろいろなものを準備しなければならず、お金がかかる。おむつや肌着やガーゼ、保湿剤、爪切り、ベビーカー、チャイルドシートなどありとあらゆるものを用意する必要があるが、ベビーカーや沐浴用のバスタブなど不要になった人のもをレンタルで借りるなどできるといい。今もレンタルはあるが条件付きなので借りることができない。レンタルできないなら、10万円くらい支給してもいいのでは。赤ちゃんだけでなく、妊婦用のものも必要なものが多い。マタニティ服、産褥ショーツ、授乳用クッション、授乳ブラ、腹帯などにもお金はかかります。子どもを授かるには負担が大きい。負担を軽くしてほしい。せめて経済面だけでも！

出産の費用よりも不妊治療に力を入れるべき。お金の負担もありがたいが、急に休んだりできる環境があればいいと思う。有給以外で。

妊婦で働くのが想像以上につらかった。リスクも高い。妊娠中は働かなくても生活できるような支援があれば助かる。

不妊治療への援助、助成

【その他】

日本国憲法に一夫一婦制が厳守されている限り少子化の流れは止まらない。

第三子に対する支援もとてもありがたくすごいことだと思いますが、まずは二人目を出産してもらえるような対策が必要なのではないのかなと思いました。

交通整備(バス、電車等の充実)、自給自足(国内生産、国内消費差の拡大)、男性育児体験

政権交代

所得次第が、複合家族が増えると向上すると思います。

子育て政策の成果が出るのは、子供が成人し税金を納めてから。政治家は自分が生きているときに結果が出ない、評価が得られない政治活動はしない、世代を超えた政策をしない限り、日本は衰退するでしょう。

結婚というものに対し、敷居が高いと感じている人が多いと思う。結婚に縛られずに、子供をもてる環境も必要だと思う。

お金の事はもちろん大前提だが、男性が働き女性が家庭を守る時代に子供が多かったというのは理にかなっていると思う。女性の社会進出を否定する訳では無いが、女性の社会での役割が多すぎるからこそ、多子出産に至らない。子供が欲しくないわけではない、産めない社会になっている。本当は子供を産みたかった。

自治体の子育て支援の充実による周辺自治体間での人口の取り合いでは、国レベルの人口減少問題を根本的に解決できないと考えます。子どもの教育費等、将来的な金銭面での負担が出生率が伸び悩む一因であるため、国が率先して子育て支援策を拡充することが必要と考えます(猶予はありません)。

ミスや問題があっても隠さないことではないでしょうか。隠すと信用を失うので根本的なところから真摯であったほうがいいと思います。

18歳頃から一人暮らしを始める人の家賃を国が免除して、将来的な親世代の負担を先に減らしておく(家賃は親が支払うことが多いと思うので)。家から出てもらうことで、子供を早めに自立へ導けるし、実家にいるよりも同じ年代の人たちとの交流が盛んになり、良いと思う。空き家問題にも取り組める。

支援を考える人が、実際に子育てをして大変さを分かってから政策を考えて欲しい。

まずは結婚。